

No.11 2024年 2月11日

受難節前第一主日礼拝  
 説教『すべてを望み、信じ、耐えるの』  
 山根 眞三 師  
 司会 市川 真美恵 さん  
 奏楽 栗原 登志子 さん  
 招詞 マルコ福音書 8章31～36節  
 主の祈 (564)  
 讃詠 5 4 6  
 交読詩編 詩編第 3 1 編  
 祈禱 美歌 21 - 3 0 5  
 使徒信条 (566)  
 聖書 Iコリント人への手紙 13章1～13節  
 説教 (口語訳271頁、新共同訳317頁)  
 『すべてを望み、信じ、耐えるの』  
 祈禱 美歌 3 6 1  
 献金 謝告 栄 5 4 2  
 祝 奏

次週の礼拝(受難節第一主日礼拝)  
 説教『まず悪魔の試みに遭われて』  
 マタイによる福音書 4章1節～11節  
 招詞へブル人への手紙4章14～16節、交読詩編91編  
 讃美歌 546、21-377、121、543

礼拝当番  
 今週 11日 司会 市川さん 献金 高橋さん  
 次週 18日 司会 神笠さん 献金 根角さん  
 会堂清掃奉仕 2月16日(金)  
 午後4時～ めぐみ幼稚園保育者

本日の集会  
 ★教会学校 午前9時45分  
 ★コーヒータム 礼拝後～  
 密に注意し、それぞれの思いを語り合しましょう。  
 ★建国記念の日を問う広島集会 午後2時～4時  
 会場:カトリック教会多目的ホール  
 講演:象徴天皇制について語り合いませんか  
 講師:大田伊杜子さん(援助修道会シスター)

今週の集会/スケジュール  
 ★西中国教区オンライン信徒大会 2月12日(月)  
 13:30～16:30 テーマ:葬儀について  
 講師:中道基夫さん(関学大神学部長)

§広島キリスト教信徒会理事会 2月13日(火)11:00～  
 会場:広島復活教会

★灰の水曜日 2月14日(水)この日から受難節(～3月30日)が始まります。祈りの中に3月31日のイースター(春分の日後最初の満月後の主日)を待ちます。

§広島拘置所教誨奉仕 2月14日(水)13:30～16:00  
 この日に聖餐式を執行する予定です。施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい。

※めぐみ幼稚園礼拝 2月16日(金)10:30～

次週以降のスケジュール等  
 ●レコードコンサート 2月18日(日)13:00～15:30  
 ベートーヴェン 交響曲第1番、第3番『英雄』  
 R.シュトラウス 交響曲詩『死と変容』作品24

◎ 2月教会役員会報告  
 1. 教区通信により教区内の情報を交換した。  
 2. 『障害者と教会』問題を考える集いは5月26日  
 3. 12月分会計報告を承認した。  
 4. 吉丸初美さんの教師検定試験受験支援を決めた。  
 (司会当番) 2/18 根角さん、2/25 吉丸さん、3/3 根角さん、  
 3/10 吉丸さん、3/17 市川さん、3/24 高橋さん、3/31 神笠さん

先週の集会	男	女	計
教会学校	0	2	2
主日礼拝	4	8	12

◇今週の説教要旨(受難節前第一主日礼拝)  
 『すべてを望み、信じ、耐えるの』Iコリント 13:1～13  
 使徒パウロはコリント教会の信徒達に霊の賜物を得るためのもっともすぐれた道を教えようと12章31節で語り、13章へと続けていった。そこで語られることは、キリストの福音を信じ、生かされる者にとっての中心的なことだった。パウロは本当に強く、激しく語る。どんなに優れたことを語り、どんなに貴いと言われることをしたとしても、自分を犠牲としていのちを捧げたとしても、愛がなければ駄目だと教えられる。しかし私はたちはともすれば全く逆のように考え、行動してしまう。自己犠牲のないような愛が果たして存在するのだろうか。愛を語るよりも行動、実践しなければならないのだと。誤解されかねないのが、ヤコブの教えだ。行いのない信仰は死んだものだ。パウロは徹底して信仰のみを教える。行いや業績によって人は救われるものではないと。こんな両者の教えの狭間で悩んでしまうのだろうか。徹底して信仰を語るパウロが、愛がなければと語る。パウロにとって愛と信仰は密接不離だ。愛がなければ一切は無益だと断言され、愛が語られるのだ。おそらく誰一人愛についてのパウロのこれらの教えに反対する人はいないだろう。確かにそのとおりだ。ただ私たちが愛を語り、愛を実践していると思っているとき、私たちは自分をしっかりと見つめなければならないだろう。私は自分の感覚を優先して貴船原少女苑の教誨師を辞めてしまった。数人の友が言った。少女達が可哀想だと。自己正当化は決して愛を生きるものでないことを知らされた。パウロが愛についての大きく、豊かな実体を教えてくればくれるほど、私は自分の歩みや、信仰の実体が大きく愛とかけ離れていることを知らされる。そして明確に迫ってくるのが、神の愛だ。イエスを私たちのために十字架へと歩ませた愛が。すべてを望み、信じ、耐えて私を愛した愛にならいたいのだ。